

カレッジ里山 花実の森 活動報告(2015年4月-2) 第53号

活動日 2015年4月25日(土)	時間 9:30~12:00	天候 (晴れ)	記録者 (菅田)
公募参加者 14家族31名 スタッフ14名	スタッフ 磯野彰夫 菅田忠志 黒子兵吾 塩ノ谷年子 松本治美 小林澄夫 俵貴志子 萩原一宏 橋野美子 丸井宣夫 山田喜義 本部:古後理事四方理事 (財)こうべ市民福祉振興協会 企画広報係長 佃様		
親子カブトムシ生育観察会(第1回 幼虫観察)			
今回実施した 内容	親子自然体験型環境学習として企画し、(財)こうべ市民福祉振興協会の共催を得て公募した『親子カブトムシ生育観察会』、年間を通して里山に棲むカブトムシの生育観察をしながら、里山を知り体験するイベント。今回は3回シリーズの1回目。幼虫観察と間伐木のこぎり作業の体験をしてもらった。 次回2回目は6月13日(土)の予定。		
写真記録 <div style="display: flex; justify-content: space-around;">    </div> <p>子どもたちにもヘルメットを着用してもらい安全に</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p>さあ出発。春の新緑と香りを体感しながら里山内を踏み分けて登る。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p>コース途中では、ササユリは新芽から花を咲かせるまで7年かかる。今、芽吹いたばかりのササユリを踏みつけないようにと…。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p>その後、金網の柵で囲まれた“今年育つ成虫のための産卵予定場所”へ移動。「今日は、ここをみんなでカブトムシが喜ぶべッドに仕上げるんだよ」</p> <p>里山内にある「大池小学校カブトムシ分校」にも立寄り、ここのカブトムシが市内の小学校での環境学習にも活用され始めたことなども説明。 ここは今日の観察場所ではないけれどちょっと探してみる。 「そつと探すんやで」「いたっ！」。高学年の中でもが見つけた幼虫に、低学年の子どもたちは興味深々。</p> <p>平成27年度観察会の看板も立てて表示</p>			

それでは今から今回のカブトムシ幼虫の生育観察の場所へ行くよ～。



ここが昨年6月に作っておいた産卵場所。さてどのくらい生まれ、冬を越して育ってくれたかな。

競争ではないよ。やさしく探してやってよ～。



たくさんいたねえ。



子どもたちはみんな5~6匹ずつは見つけていたもよう。大きく育っている幼虫を1家族に3匹ずつペットボトルに入れておみやげに。「家に帰ったら1匹ずつに分けるんやで。渡したしおりに飼育の仕方が書いてあるので、しっかり育てて、自宅でもサナギ観察・成虫飼育をするんやで…」

お手伝い作業その1:コナラ間伐材のノコ挽き作業



そのままだとチッパーの機械処理ができない太めのコナラ間伐材の小枝を、まき割にする前にまきの長さにノコ切断の作業を体験してもらった。みんな真剣に作業台に乗せてゴリゴリと。「これも楽しかった」と子どもたち。「こんな体験もありがとうございます」との父兄の感想も。

お手伝い作業 その2: 自分たちでカブトムシ産卵場所づくり



今年の成虫が産卵してくれるであろう場所へチップや枯葉を運ぶ。さすが高学年の子どもたちは頼もしい。



イノシシ対策の金網柵にどんどん入れていく。カブトムシに好かれそうな産卵場所になったかな？



最後に“ふりかえりシート”を書いてもらった。「たのしかった」「土の中にいるカブトムシをはじめて見た」「思っていたより大きかった」「虫ぎらいの娘が幼虫を手のひらに乗せて嬉しそうにしていたことが不思議です」とは親御さんの感想。

おみやげにカブトムシの幼虫をペットボトルにいれてもらい持ち帰り。ごくろうさまでした。

この後の2回目(サナギ観察)、3回目(成虫観察)も、その時期に合った企画で体験してもらいましょう。



この次は 6月13日(土)だよ～

